

【海外】

<p>パイン</p>	<p>エルニーニョ現象による干ばつで、不作が続いている状況です。 原料の集荷が悪く、すでに工場メンテナンスに入っている状況。11月頃までは原料が手に入らないので、新規案内は休止の状況。 ゴールデンパインは比較的余裕がある状況。</p>
<p>オレンジ</p>	<p>主生産地であるブラジル産原料の2024年の作柄予測（第一報）が出て参りましたが、昨年対比で約24%減と非常に悪い数字が発表されております。 その為、ブラジル産原料をはじめ他産地であるメキシコ・イスラエルの価格も大きく上昇する見込みとなります。</p>
<p>アップル</p>	<p>2～4月は南半球産原料の収穫シーズンとなり、弊社でもサプライヤーへ確認したところオレンジ果汁の高騰により安価と云われる他原料（アップルや白ぶどう）への需要が強くなっており、価格が上昇しております。</p>
<p>グレープ</p>	<p>アメリカ産赤グレープ果汁について作柄は低い水準で安定。為替の関係で原料価格は上昇も戦略的な価格を提示しているサプライヤーの影響も有り、今期は据え置き傾向。 一方でブラジル産赤グレープ果汁については今期不作との事でアメリカ産への引き合いが強まっております。白グレープ果汁については昨年の凶作から回復傾向となりますが、原料価格は為替の兼ね合いや需要の高まりから高値で推移しております。 チリの赤ぶどうは、南エリアが2週間～3週間の収穫遅れ、北エリアが2週間～3週間収穫が早まる。春先の低温が原因で、収穫時期が各エリアでばらつき、計画的な原料購入が難しい年だったとのこと。収穫量は、約20%減。原料価格は上昇し、為替の影響も受け、値上がりとなっている状況です。</p>

レモン	アルゼンチンレモンも引き続き好調で、為替の影響で昨年より若干値上がりましたが、大きな変動は無い状況です。
グレープフルーツ	世界的なトレンドとして、オレンジが不作且つ大幅な価格上昇により、他の柑橘をブレンドする動きとなっております。（日本国内は今のところみかんのブレンドが主となりますが）その為、グレープフルーツ果汁の価格も上昇しております。 グレープフルーツには赤・白と存在しますが、糖酸比のバランス等の兼ね合いにより、世界的にはピンクが主となり、マイナーなホワイトについてはより大きな価格上昇となっております。
台湾産ライチ	春先の高温が花に悪影響を与えて、7割減。2月に18°C以上の日が10日以上あった為。かなりの高騰が予想される。
インド産アルフォンソマンゴー	2024年クローブは、4月24日から収穫開始。今のところ、5月、6月にハリケーンや豪雨がなければ良好なクローブとなりそうです。
チリ産クランベリー	作柄は平年作だったものの、世界的にクランベリー供給状況がひっ迫しているため、高騰中。
南アフリカ産洋梨果汁	為替分で昨年よりも値上がりしている状況です。

【国産】

リンゴ	収穫量は減っているが、輸出が好調、そのため国内向けが少ない状況続く状況です。
サクランボ	今期は実が丸じゃなく双子のようなものが出ている。 そのため、加工用にまわる量が出てくると予測されております。
いちご	あまおう：需要増、収穫量は減っている とちおとめ：供給が難しい状況
巨峰	シャインマスカットへの転作が続き、巨峰の原料確保が厳しい状況が続いております。
ユズ	昨年表年で大豊作であった、今年は逆に不作が予想されております。
和梨	余裕がある状況です。
白桃	不透明な状況です